

プロポリスの薬理効果

No. 1/2

I 抗酸化作用（抗腫瘍）

紫外線や放射線、タバコや車の排気ガス、食品添加物など、我々の身の回りのあらゆる所に活性酸素の発生源があります。

この「活性酸素」が、老化、発ガン、成人病などのあらゆる病気の元凶となっています。これには、日本人の食生活・慣習が欧米化したことに大きく起因します。この危険な「抗酸化物質」を体内で攻撃するための何かが必要となってきました。現在ある食品の中では、化学的見地からも「プロポリス」を食べて、他にこの活性酸素を除去できる食品はないと言われていました。

- * 「B型肝炎」に劇的な効果があり、一般的な慢性肝炎にも効果大という結果が出ています。アトピー性皮膚炎、難治性皮膚炎、疥癬、乾癬、水虫などにも効果あり。但し、個人差は見られます。

II 抗菌作用（抗生物質的作用）

プロポリスの数ある作用の中で、昔より、最も活発に研究されてきた作用です。

特に、院内感染で大きな社会問題になっている「MRSA」は、ペニシリンにも、更にもその上を行くメチシリンにも耐性を持ってしまった「黄色ブドウ球菌」で、殆どすべての薬に抵抗性を持っています。

しかし、プロポリスには「抗 MRSA 活性」があることが確認され、現代の抗生物質では全く効果が無い「菌」に対しても、プロポリスは効果を持っていることがわかりました。どんな抗生物質も効かなくなった「MRSA」に抗菌作用を持つところに、自然物質のすばらしさが見えます。但し、抗生物質ほど強い作用ではありませんので、善玉腸内細菌を死滅させることはありません。このような理由から、「プロポリス」が副作用のない、安全な“自然の抗生物質”と呼ばれる所以です。

III 抗炎症作用

抗炎症作用は、抗菌作用と並んで、古くから良く知られている作用で、文献にも医療への応用が数多く登場してきます。

口内炎、咽頭炎、鼻炎、歯痛、歯肉炎、胃炎、やけど等、およそ炎症とつく病気に、プロポリスは大変良い結果を出しています。しかし、何故「プロポリス」に抗炎症作用があるのか、明確な作用機序は判明していませんが、恐らく、未だ解明されていない「総フラボノイド」の相乗効果と言われている。

IV 鎮痛・麻酔作用（天然のアスピリン）

アピモンディア（世界養蜂学会事務局）が出版する本の中に、プロポリスを使用して、局部麻酔作用を動物実験で証明したブルガリアの獣医学者の論文が掲載されています。

ツァコフ博士は、11頭の羊と、3頭の犬に3種類の麻酔薬を注射し、開腹手術を試みています。その時に用いた麻酔液は、①3倍量の30%アルコールで抽出したプロポリス溶液、②等倍の水で抽出したプロポリス溶液（水抽出プロポリス）、③5%ノボカイン（麻酔剤）です。

手術の結果、①はノボカインと同等の麻酔効果があった。②の水抽出プロポリスにも多少の麻酔効果があった。

羊や犬といった大型動物の開腹手術に耐えるだけの麻酔作用があるのには驚きますが、その有効量がそれほど多くないことが驚異的と言えます。例えば、50kgの動物でも、僅か0.6gですむのです。かなり強い麻酔効果ですが、麻酔作用による副作用は一切なかったとの報告です。

V 免疫作用（自然治癒力に関わる作用）

この免疫能力促進作用は、既に様々な学会でも発表されています。「免疫不全」による病気が非常に増えている昨今、世界中で注目されている作用です。

人間の身体には免疫反応と言って、外からの侵入者（ウイルスや細菌などの非自己と認識されるもの）を識別して、それらを排除する機能が備わっています。一般的には「自然治癒力」と呼ばれます。

この免疫機能を高めるひとつが、マクロファージ（貧食細胞）の活性化であり、このマクロファージにプロポリスを与えると、マクロファージは時間と共に大きく成長し、貧食能（細菌などを食べる機能）が上昇、働きも活発になることが明らかになりました。

又、松野博士（国立予防研究所；プロポリスにガン抑制作用があることを発表）の研究でも、低下していたガン患者のナチュラルキラー（NK）細胞や白血球が、プロポリスの投与によって正常人と同じくらいまでに回復したことが報告されています。

これらの細胞も免疫をつかさどる細胞で、プロポリスの「免疫能力促進作用」を証明しています。

プロポリスの安全性

プロポリスを、他の健康食品や薬と併用しても副作用はありません！！

ドイツでは「ドイツ保健省」がプロポリスを医薬品と認定しています。当然、副作用等の臨床データを踏まえ、その効能と共に「プロポリス製品」が安全で効能性の高い「医薬品」であると認定したからです。

プロポリスが人類と遭遇して、約6000年。これ程長い歴史の中で育まれてきた健康食品は他にはないでしょう。

「民間治療薬」は先人が経験的にその効果・効能を知り、今日に伝えられてきたものです。もし、効果もなく、身体に危険を及ぼすようなものであれば、それは自然に消滅してしまうものです。

しかし、毎日飲むものだけに、その量の許容範囲を心配する人も少なくはないはずですが、ましてや、これだけ顕著な作用を示す「プロポリス」です。

ヨーロッパでは一定基準の安全データが揃っています。例えば、「体重1kgあたり、10～15gのプロポリスを犬、ラット、モルモットに数ヶ月間経口投与したところ、何らの毒性や病理上の問題は一切なかった」と記されております。体重50kgの人が、100gのプロポリスを飲んでも害は無いと言えます。

通常、複数の薬を併用すると、それらの作用がお互いに邪魔し合って効果が薄れ、時には副作用が出たりすることがありますが、少なくとも、複数の薬を同時に飲んで身体に良いことは決してありません。

しかし、「プロポリス」は基本的には自然物質です。どんな薬と併用しようが副作用や害は無いと言われています。併用しても薬の効果を邪魔しないばかりか、かえって、相乗効果によってさらにその薬の効果を高める作用があるのです。ですから、「プロポリス」を「抗ガン剤」等と併用することが薦められている所以です。「抗がん剤」の副作用による痛みを和らげ、脱毛を防ぎ、がん細胞を攻撃する、免疫力を高める、等々、これらの副作用に対し多種にわたり「プロポリス」がサポートしていることが認められています。

* 但し、「妊婦」の方の服用は避けてください。数ある臨床データを見ても、実際に「妊婦」の方で臨床を行ったケースは現代にはないのです。科学的に「プロポリス」の安全性は確認されておりますが、臨床データがありませんのでお奨めすることはできません。